

ウオダス 漁海況速報 No. 1795



発行日 平成25年1月21日 <http://www.aomori-itc.or.jp>
 発行 (地独) 青森県産業技術センター水産総合研究所
 TEL:017-755-2155 FAX:017-755-2156
 住所 〒039-3381 青森県東津軽郡平内町大字茂浦字月泊10

1月のウオダス発行予定

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	⑦	8	9	10	⑪	12
13	14	15	⑬	17	18	19
20	⑳	22	23	24	25	26
27	㉑	29	30	31		

○ 漁海況 □ 漁況

○陸奥湾産マダラの資源変動要因

小 泊 (1月16~20日)	
スルメイカ 釣り	2隻 620.0kg
ウスメバル 釣り	22隻 547.0kg
マダラ 刺網	8隻 1,812.0kg
アブラツノザメ 刺網	2隻 20.0kg

下 前 (1月16~20日)	
スルメイカ 釣り	4隻 130.0kg
ウスメバル 釣り	11隻 224.0kg
マダラ 刺網	4隻 1,471.0kg

鱈ヶ沢 (1月11~15日)	
スルメイカ 底曳網	1隻 5.0kg
ヤリイカ 釣り	1隻 2.4kg
(3,901.9kg) 底建網	35隻 3,884.1kg
底曳網	1隻 15.4kg
マダイ 底建網	35隻 130.3kg
(5,982.6kg) 底曳網	1隻 5,852.3kg
ブリ 底建網	35隻 8.5kg
ウスメバル 底建網	35隻 28.9kg
(30.1kg) 底曳網	1隻 1.2kg
マダラ 底建網	35隻 228.8kg
(627.0kg) 底曳網	1隻 398.2kg
マイワシ 底建網	35隻 200.0kg
アブラツノザメ 底曳網	2隻 582.6kg

鱈ヶ沢 (1月16~20日)	
ヤリイカ 底建網	30隻 7,053.0kg
マダイ 底建網	14隻 0.4kg
ウスメバル 底建網	30隻 4.6kg
マダラ 底建網	30隻 16.6kg
(20.6kg) 底曳網	1隻 4.0kg
アブラツノザメ 底曳網	2隻 30,230.0kg

深 浦 (1月16~20日)	
スルメイカ 底曳網	1隻 32.0kg
ヤリイカ 釣り	5隻 45.0kg
(203.0kg) 定置網	4隻 32.0kg
底曳網	5隻 126.0kg
ブリ 定置網	3隻 22.0kg
ウスメバル 釣り	9隻 188.0kg
(291.0kg) 刺網	9隻 103.0kg
マダラ 定置網	3隻 29.0kg
(1,558.0kg) 底曳網	9隻 798.0kg
刺網	9隻 731.0kg
サクラマス 定置網	5隻 30.0kg
サケ 定置網	2隻 20.0kg

大 戸 瀬 (新深浦) (1月11~15日)	
ヤリイカ 定置網	6隻 38.5kg
(12,664.1kg) 底建網	105隻 12,625.6kg
マダイ 定置網	2隻 8.6kg
(470.4kg) 底建網	97隻 461.8kg
ブリ 定置網	1隻 21.2kg
(38.1kg) 底建網	13隻 16.9kg
ウスメバル 底建網	65隻 50.9kg
マダラ 定置網	3隻 141.4kg
(460.4kg) 底建網	24隻 319.0kg
マイワシ 底建網	1隻 50.0kg
サバ類 底建網	4隻 17.2kg
サクラマス 定置網	6隻 30.0kg
(63.8kg) 底建網	5隻 33.8kg

大 戸 瀬 (新深浦) (1月16~20日)	
(取りまとめ中)	

佐 井 (1月16~20日)	
(取りまとめ中)	

平 館 (外ヶ浜) (1月16~20日)	
定置網 18隻	
スルメイカ	344.5kg
ヤリイカ	36.2kg
マダイ	5.0kg
マダラ	206.6kg
マイワシ	420.0kg
サバ類	5.0kg

三 既 (1月16~20日)	
ウスメバル 釣り	6隻 218.4kg
アブラツノザメ 延縄	5隻 2,939.0kg

大 畑 (1月16~20日)	
スルメイカ 底建網	3隻 230.0kg
ヤリイカ 定置網	6隻 148.7kg
(560.7kg) 底建網	8隻 184.7kg
底曳網	4隻 227.3kg
マダイ 底建網	3隻 3.8kg
クロマダラ 定置網	1隻 36.1kg
ウスメバル 釣り	1隻 15.0kg
(56.8kg) 底建網	13隻 24.2kg
マダラ 定置網	2隻 14.3kg
(116.1kg) 底建網	11隻 101.8kg
マイワシ 定置網	1隻 16.0kg
サバ類 底建網	1隻 0.3kg
サクラマス 釣り	33隻 303.4kg
(404.7kg) 定置網	6隻 101.3kg
サケ 定置網	6隻 245.4kg

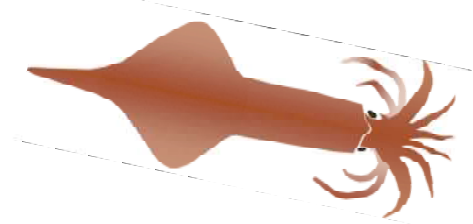
八 戸 (1月16~20日)	
サケ 定置網	3隻 2,780.0kg

三 沢 (1月16~20日)	
(漁獲なし)	

尻 労 (1月16~20日)	
ヤリイカ 定置網	7隻 310.0kg
クロマダラ 定置網	5隻 441.0kg
マダラ 定置網	6隻 243.0kg
サクラマス 定置網	4隻 63.0kg
サケ 定置網	6隻 270.0kg

白 糠 (1月11~15日)	
スルメイカ 釣り	16隻 210.0kg
ヤリイカ 釣り	28隻 878.0kg
ウスメバル 釣り	12隻 105.9kg
マダラ 定置網	4隻 17.6kg
サクラマス 定置網	4隻 10.3kg
サケ 定置網	4隻 266.2kg

白 糠 (1月16~20日)	
スルメイカ 釣り	1隻 1,014.0kg
ヤリイカ 釣り	55隻 1,502.0kg
(1,505.0kg) 定置網	2隻 3.0kg
ウスメバル 釣り	21隻 118.3kg
マダラ 釣り	12隻 2.3kg
(5.5kg) 定置網	2隻 3.2kg
サクラマス 釣り	17隻 14.5kg
(30.0kg) 定置網	7隻 15.5kg
サケ 釣り	4隻 100.3kg
(481.2kg) 定置網	5隻 380.9kg



沿岸各地の水温

(1月16~20日)

日本海 5℃~6℃台 津軽海峡 6℃~9℃台
陸奥湾 4℃~9℃台 太平洋 5℃~7℃台

今回は平均前回差が-0.8度となりました。前年と比べると、日本海で+0.9度、津軽海峡で+0.5度、陸奥湾では+1.1度、太平洋では+0.4度、平均前年差は+0.7度となっています。平年と比べるとすべての海域で「平年並み」となっています。

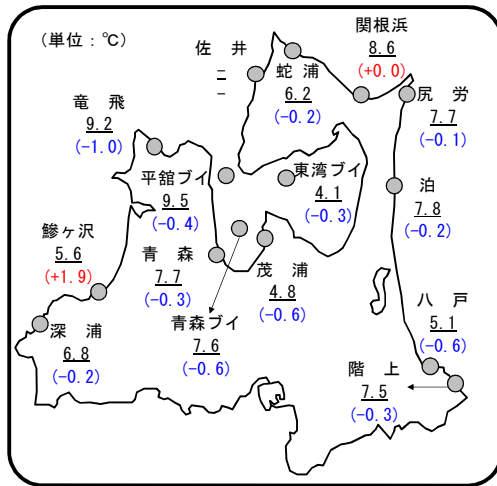


図 定地水温(1月16~20日)
平均値(平年差)パイ1m

表 沿岸各地の水温(1月16~20日)(単位:℃)

		水温	前回差	前年差	平年差
日本海	深浦	6.8	-2.3	-0.2	-0.2
	鰺ヶ沢	5.6	-1.4	+2.0	+1.9
	平均	6.2	-1.9	+0.9	-0.2
津軽海峡	竜飛	9.2	+0.2	+1.1	-1.0
	佐井	-	-	-	-
	蛇浦	6.2	-2.0	+0.1	-0.2
	関根浜	8.6	-0.3	+0.3	+0.0
陸奥湾	平均	8.0	-0.7	+0.5	-0.4
	青森	7.7	-0.1	+2.7	-0.3
	茂浦	4.8	-0.4	+2.0	-0.6
	平館パイ	9.5	-0.6	-0.1	-0.4
太平洋	青森パイ	7.6	-0.4	-	-0.6
	東湾パイ	4.1	-1.8	-0.4	-0.3
	平均	6.7	-0.6	+1.1	-0.4
	尻労	7.7	-0.9	+0.1	-0.1
	泊	7.8	-0.8	+0.3	-0.2
	八戸	5.1	-1.0	+0.3	-0.6
全体平均	階上	7.5	-0.5	+0.7	-0.3
	平均	7.0	-0.8	+0.4	-0.3
全体平均		7.0	-0.8	+0.7	-0.2

※平成21年4月から鰺ヶ沢の観測位置が変わりました。
※平均の平年差には鰺ヶ沢は含まれません。
※深浦、鰺ヶ沢、竜飛は1/16まで

太平洋の海況(1月16日~17日、表面水温分布)

概況:沿岸水温は9℃台

○太平洋沿岸域の表面水温

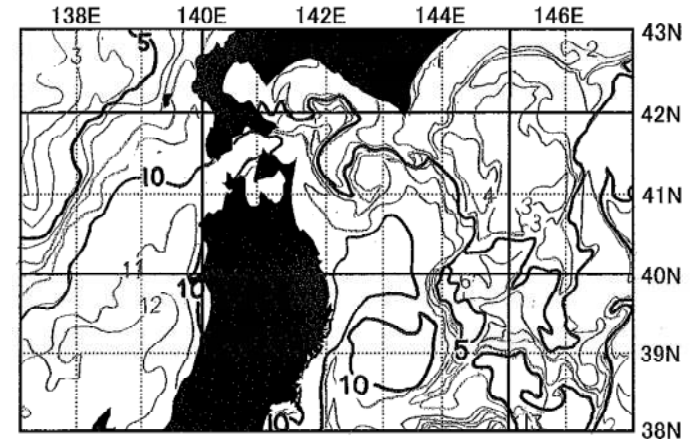
前回と比べ1度ほど降温しています。これは前年同期と比べわずかに高い水温となっています。

日本海の海況(1月16日~17日、表面水温分布)

概況:沿岸水温は10℃台

○日本海沿岸域の表面水温

前回と比べ1度ほど降温しています。これは前年同期と比べほぼ同じ水温となっています。



資料:(社)漁業情報サービスセンター
北部太平洋海況速報 第80号 1月18日発行

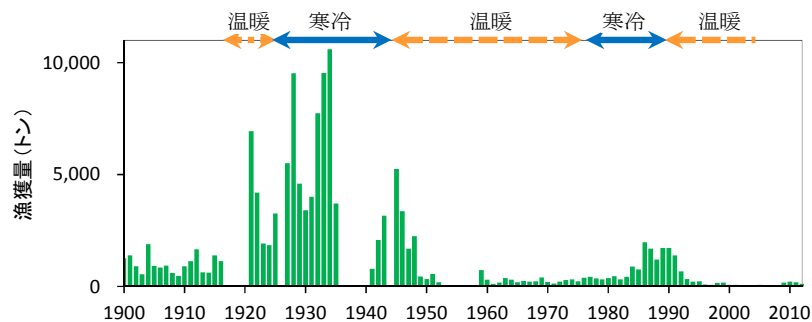


図1 陸奥湾におけるマダラ漁獲量と温暖期・寒冷期の関係
(温暖・寒冷は見延(2003)より引用)



図2 マダラの年齢査定に用いた耳石
(左:耳石全体図、右:耳石の横断面図3歳魚の輪紋数)

○陸奥湾産マダラの資源変動要因を探る

陸奥湾はマダラの産卵場・生育場となっています。稚魚は水温が12℃を超える6月頃に湾の外へ出ていき、その後、多くは北海道太平洋側へ索餌回遊し、成熟すると陸奥湾へ産卵回遊します。成熟開始年齢は雄3歳、雌4歳、寿命はおよそ8年です。漁獲量は中長期的に大きく変動し、寒冷期は好調、温暖期は低調となっています(図1)。

漁獲の変動要因は、産卵期の水温環境にあり、平年よりも低めの水温が好適な条件と考えられています。好適水温下では発生率・生残率が高くなり、数年後に陸奥湾へ産卵回帰するマダラが多くなると想定していますが、検証が必要です。そこで、好適な水温の年に産まれたマダラが陸奥湾に多く回帰するの確かめるため、昨年度から漁獲されたマダラの年齢査定を開始しました(図2)。